



車が歩道側に逸脱した場合、 運転者に注意を促したい

→ 側溝の上部に凹凸(おうとつ)を設けて振動で伝えます

運転者が居眠りして、歩道部に接近したら・・・！

微振動機能付き側溝「あんしんバリアー工法」(NETIS:HR-110017-A)は居眠り運転や脇見運転で歩道部に接近した逸脱車両の運転者に微振動を与えて注意を促すことが可能です。側溝上部が突起構造となっています。

また、音が側溝内を伝わって、歩行者にも早く知らせることができる機能もあります。



【施エイメージ図】

◎側溝上部の突起構造



通学路の側溝

通学路の側溝に使用されている事例です。側溝本体と一体化されたわずかな突起構造のため磨耗が少なく、設置後は維持管理がかからないメンテナンスフリー工法です。



歩道への乗り入れを抑止する

歩道と車道の間を設置することで、逸脱ドライバーに振動を与えて、歩道への乗り入れに注意を与えます。新設する側溝には、このような工夫を取り入れることで、安全性が向上します。